

# 線状降水帯の予測精度向上に向けた取組

---

奈良地方気象台

## 線状降水帯の予測精度向上に向けた取組（情報改善の深化）

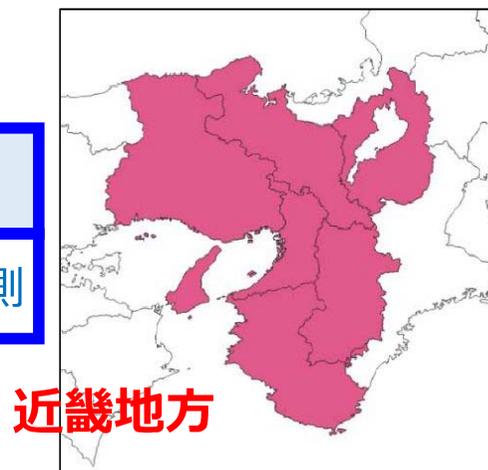
観測や予測の強化の成果を順次反映してきた。

- ・ 令和4年6月より、線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけを開始。
- ・ 令和5年5月より、「顕著な大雨に関する気象情報」（線状降水帯の発生をお知らせする情報）をこれまでより最大30分程度前倒しして発表する運用を開始。
- ・ 令和6年5月下旬からは、令和4年度から開始した半日程度前からの呼びかけを府県単位で実施。

今年の新たな運用

令和6(2024)年

府県単位で半日前から予測

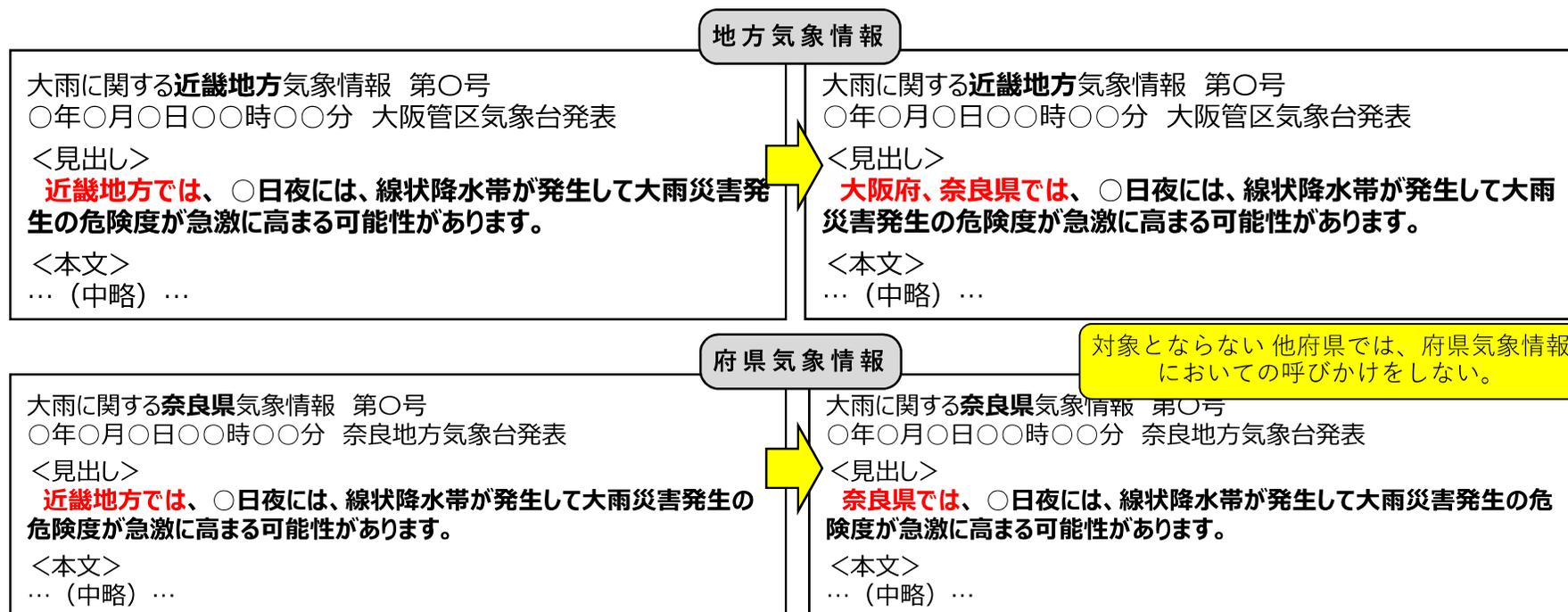


絞り込んで  
対象地域を  
発表



# 線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけ

- 線状降水帯による大雨の可能性が高い場合に、気象情報において半日程度前から呼びかける。
- これまでは地方予報区単位等で呼びかけを実施していたところ、令和6年度からは府県単位に絞り込んで呼びかけを実施する。
- 警戒レベル相当情報を補足する解説情報。



# 線状降水帯の予測精度向上に向けた取組（今後の展望）

線状降水帯による大雨の可能性をお伝え

「明るいうちから早めの避難」 … 段階的に対象地域を狭めていく

令和3(2021)年  
線状降水帯の発生をお知らせする情報  
(令和3年6月提供開始)



線状降水帯の雨域を楕円で表示

令和4(2022)年～

広域で半日前から予測  
(令和4年6月提供開始)

令和6(2024)年～

府県単位で半日前から予測

今年の新たな運用

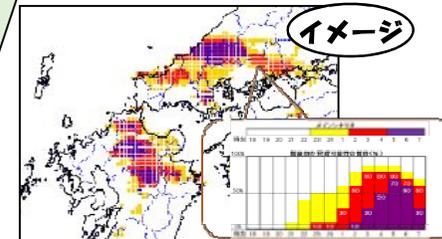
次期静止気象衛星

令和11年度  
運用開始予定



令和11(2029)年～

市町村単位で危険度の把握が可能な危険度分布形式の情報を半日前から提供



令和5(2023)年～

最大30分程度前倒して発表  
(令和5年5月提供開始)

令和8(2026)年～

2～3時間前を目標に発表

「迫りくる危険から直ちに避難」 … 段階的に情報の発表を早めていく

線状降水帯の雨域を表示